

# 第4回 郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議

## 議事概要

日時：平成27年10月20日（火）

10:00～12:00

場所：郡山市中央公民館2階 第5・6講義室

### ○開会

司 会) おはようございます。定刻になりましたので第4回郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議を開会します。本日は佐藤委員、松原委員、三森委員、首藤委員が欠席となっております。事務局側は部長が遅れて参ります。はじめに濱田政策開発部次長からご挨拶申し上げます。

### ○郡山市挨拶

政策開発部次長) おはようございます。本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。部長に代わりましてご挨拶させていただきます。先週福島県の有識者会議において総合戦略の基本目標が示された。人口目標についても間もなく示されると聞いている。本市においても策定作業が佳境を迎えている。本日は第4回ということですのでこれまでの委員の皆様の見解やアンケート結果などに基づき、人口ビジョンの素案や総合戦略の骨子についてご討議いただきたい。

### ○座長挨拶

司 会) 続きまして内藤座長よりご挨拶をお願いします。

内藤座長) 今回の会議のテーマは出生率に関連することが多い。先日、増田元総務大臣のお話を伺う機会があり、人口維持のためには合計特殊出生率2.07（10人の女性のうち7人が3人の子どもを産む水準）を目指す必要があり非常にハードルが高いという話があった。出生率は機微に触れる部分であり難しいが、これを維持できないと人口が減るのは間違いないという事実は受け止めなければならない。人口が減るということは経済にも影響が出るのは間違いないので、なんとか郡山市はできるだけ高い出生率が維持できるまちであってほしいと思う。皆様のご意見をお聞きして取り入れていければ幸いです。

### ○議事1 アンケート調査の結果について

○議事 2 (仮称) 郡山市人口ビジョンの素案について

○議事 3 郡山市総合戦略の骨子(案)について

内藤座長) 議事の1から3までは一括して事務局から説明していただきます。

事務局) アンケート結果については前回は速報値の報告だったが、今回はクロス集計を含めて資料1-2と1-3で概略を説明する。次に人口ビジョンについては最終的には文章になるが、資料2-1は素案の骨子をまとめたもので、2-2については素案を説明用に簡略にしたものになる。説明は資料2-1で行う。総合戦略についても最終的には文章になるが、前回の会議で基本目標に頂いた意見を反映して修正した基本目標を資料3-1に整理した。

～事務局資料説明略～

内藤座長) 資料の量が多くてコメントをいただくのが難しいかもしれないが、今の説明を受けて質問があれば承ります。

丹野委員) 人口目標の30万人というのは非常に分かりやすく県人口に対するシェアは高まるという想定になっているのも良いと思う。年齢別の内訳や交流人口についてどのように考えているか。自然体での推計値28万人と目標値30万人ということであまり変わらないという印象もあるが30万人にした理由、例えば国との権限の関係等があれば示してほしい。28万人と30万人の違いを説明するのが難しいのではないか。努力目標等の根拠を示した方が良い。

内藤座長) 何かデータをお持ちでしょうか。

事務局) まず年齢構成について。分析はしているが今回は資料ではお示ししていない。30万人を目指すにあたって出生率と社会移動率をどうするかということを様々に組み合わせて検討している。30万人にすることの意義というのは庁内でもかなり議論になった。

丹野委員) 計画は分かりやすさも大事なので、それはいいと思う。30万人になった時の人口構成であればうまく回っていくのだというようなものがないと「つかみで30万人という数字が出てきたのではないか」という話が出てきた時に反論しにくい。

事務局) 一つの基準として現在は20万人になってしまったが中核市の要件が人口30万人だった。30万人以上が条件になっているものとしては事業所税がある。30万人の根拠についてはもう少し整理したい。

内藤座長) 実現できる数字と達成しなければいけない目標のバランスをとって決めたということが表現できればよいのではないか。質問が他になれば上田委員から順に意見を伺いたい。

上田職務代理者) 人口ビジョンと総合戦略について、各一点お願いがある。人口ビジョンについては「郡山市がどういう姿になっていくか」を示してほしい。資料2-1の将来展望のところで(4)は「多世代近居の地域づくり」というビジョンはあるが、(1)から(3)はどんな郡山市を目指すのかというビジョンが示されていない。組み合わせてみれば「市内には中核的な企業があつて、女性も働きやすくて、核家族でも多世代近居で子どもが育てやすい」といった「ビジョン」＝「ふわっとした目標」を加えていただきたい。

総合戦略については「ドラえもんのどこでもドア」にならないようにしてほしい。総花的に6つの基本目標を挙げているが、それぞれの項目がどのように相互に関連してビジョンを達成していくかという「ストーリー」が必要なのではないか。総花的で縦割りという批判を受けないようにするためにはストーリーが大事。この6つの基本目標によってどのようなストーリーを描いていくのかということも考えてほしい。ストーリーは一つではなくて、幾つかのストーリーがあつて全てが成功しなくても良い。それらの幾つかのストーリーは独立したものではないと思う。皆さんの頭の中にあるストーリーを発信していただきたい。

内藤座長) 大切な視点だと思う。私も人口を減らさないためにはどうするかということに囚われてきたが、今のご指摘は「あるべき姿を描くべき」で、その姿を目指す戦略＝ストーリーがあるべきだということだと思う。大変だと思うが大事な点なのでご検討いただければ。

上田職務代理者) 案としてはよくできているし、補助的なものだと考えてもらって良い。

内藤座長) これを実現すれば、郡山に住めばこうなるという将来の姿があると良い。

アンケートで「学力に見合った進学先がないので転出する」という結果が出ているが、それについては大学人としてはどう思うか。

上田職務代理者) それは事実だと思う。全ての市に MIT が揃っているわけではない。人はグローバルに流動していくものであり、勉強した場所で子どもを育てる必要はない。郡山市から日本全体のブレイクスルーを発信していくとすれば、人は動くということを前提として、別の場所で勉強したとしても郡山に戻って働けるようにするとか、家族は郡山に残して別の場所で例えば単身赴任でも他の場所で働くということを目指せば良い。もちろん大学人としては行政や地元経済界の支援もいただきながら産学連携も充実して地元で進学して地元で働ける環境づくりを目指していきたいと考えている。

内藤座長) 大和田野委員は研究機関から出席いただいているが、「しごとみがき」などに関連してご意見があれば。

大和田野委員) あまりそういう観点では考えていないが、まずどういうまちにしたいかということが大事だというのはその通りだと思う。分かりやすく言えば「活力があつて住みやすいまち」を目指すということ。このまま放置すればそうならない

という危機感が背景があって、目標を実現するためには30万人を確保したいという方向性は分かりやすいし、それでいいと思う。もちろん根拠は必要だが。人口の維持というのは様々な面に影響が出てくるし、大事な目標だと思う。

総合戦略の6つの基本目標で必要な項目は網羅されているとは思いますが平板な印象は否めない。これまでも言ってきたが、交通の便などの郡山市の強みを生かして人が集まってくるようにしなければならないということ。周辺地域のハブとしての位置付けを積極的に生かしていくことが必要。もう一つは郡山市の吸引力につながるセールスポイントをアピールしていくということも必要。交通の要衝である郡山市では色々な人が混じり合っただ様性が生まれ、それが魅力になってきたという歴史的な流れがあるので、そういうことを積極的に利用していくべき。都市の魅力を生かして交流がおこって産業が活性化するという流れが必要で、それを支える住みやすいまちづくりを進める、という順番ではないか。6つの基本目標を相互に連携させて目標を実現するという視点を忘れずに、縦割りではない具体的な施策を位置付けていただきたい。

基本目標を個別に見ていくと、基本目標1では産業というと製造業がメインになりがちだが、農業や商業、それらを核にした交流・消費というものも忘れないようにしたい。そのためには市の中心部だけではなく、各地域の商業拠点の整備やそれを結ぶ交通インフラの整備を充実して短時間で移動しやすくするという投資も効果があるのではないか。基本目標5に関連して、高齢者が増加していく中で高齢者の生きがいづくりが必要だが、金銭だけが目的ではなく社会の役に立っているという満足感を得られる仕事を提供していくことにより、基本目標6の楽しく学べる環境づくり、若い世代への貢献ということにもつながっていくと思う。基本目標3の子育て支援については、外国では「若いうちは郊外で子育てをして、高齢になったら生活が便利な街なかに住む」という考え方が多いが日本では逆になっていて、「若いうちは親と離れてアパート暮らしをして、子育てが大変になると親の近くに住む」という人の流動に合わせた住宅供給が行われれば、それも子育て支援になるのではないか。

内藤座長) アンケートの中で都市機能に対して男性は不満を持っていて、一方で東京に近いことを評価している人もいる。つくば市での経験を踏まえて、地方都市と東京の連携をどうするかということについて何か意見を頂ければ。

大和田野委員) 一つは交通網。幹となる新幹線を最大に活用すること。幹線交通ができることにより人の流出が起こることを懸念する人も多いが、つくばではTXができたことによって人の流入が起こっている。戦略的に取り組めば人の集まるまちは作れる。

内藤座長) 続いて小川委員。

小川委員) 出生率2.07を維持しないと人口が減るということだった。資料でも数字が

たくさん出てくるが、それが女性にとって何か意味があるかといえないと思う。全体として結婚から出産・子育ての流れを作るという政策になるが、福島という土地柄を考えると女性にとって結婚というものが負担になっているのではないか。子どもを作るだけのために結婚するわけではない。女性の立場からすると、結婚に付随する社会的な責任とか世間の目とかに対する不安が多い。結婚・出産・子育てに対する支援は重要だが、その前に多様な生き方ができる土地柄であれば、仕事の仕方も変わってくる。多様な生き方を許容する環境があればもっと活性化するのではないか。

基本目標 1 から 6 があるが、ここに至る具体的な流れがあると思うのでそれが示されれば理解しやすいと思う。掲げられている目標は理想像であり、実現できれば素晴らしいが実現するための流れ、どの時期にどこまでやるかといったことが示されれば 2040 年までの流れが分かりやすくなるし、アイデアも出てくると思う。

基本目標 6 にある「グローバルな人材育成」のためには基本的な学習能力や思考力が備わっていなければならないが、グローバルな人材を育てるということは結局は世界に出ていくということで人口流出抑制とは矛盾する部分もあるが、外に出て行ったからこそ気づくことや新しく作っていけることもある。人の流れを作っていくということを進めていけば、1 から 6 までどんどん変わっていくような気がする。

内藤座長) 大事な視点だと思う。子どもを生まなければいけないということを指摘するつもりはなくて、産みたい人が産める環境、働きたい人が働きやすい環境を提供することを大事にしなければいけない。

会津大学がスーパーグローバルユニバーシティに選ばれた。グローバルな視点は大事だが、故郷のことは忘れないでグローバルな視点で頑張ってもらいたい。ふるさと納税という制度もあるが、若いうちはグローバルに活躍して子育ては地元に戻ってやるということも可能だと思うので、多様なライフスタイルを認める社会というのにも必要かと思う。書くことが増えて大変だとは思いますが画一的にならずに多様性を許容するという視点は入れておいてほしい。続いて小松委員から。

小松委員) 基本目標と主な政策パッケージでまちづくりに関しては基本目標 4 になると思うが、政策パッケージに「市民主体のまちづくり」「市民参加による地域活性化」を入れていただきたい。

人口ビジョンが 2040 年までの長期目標で総合戦略の方は 5 年目標ということならば、震災からまだ 5 年で人口減少がようやく落ち着いてきたところなので、放射能のことを直接書かなくても健康相談や食の安全の確保などの配慮は続けるという市のメッセージを発信した方がよい。

内藤座長) 先ほど上田委員にも聞きましたが、福島大学が学生を集めるためには何が必要かということもお聞きしたい。

小松委員) 会津大学はスーパーグローバルの指定を受けたが、福島大学は大学COC事業＝「地(知)の拠点事業」に取り組んでおり、地域貢献する大学を目指して自治体と連携してカリキュラムを作っている。教職員も学生もインターンシップなどを通じて県内全域に出向いて地域づくりのニーズに応えていこうとしており、郡山市とも連携協定を結んでいる。自治体と大学が相互に意見を出して改革に取り組めればと思っている。

内藤座長) 竹内委員の代理で佐藤さんをお願いします。

竹内委員代理佐藤) 産業の基本目標については概ねよいと思うが、メッセージの発信の仕方として象徴的な先端産業分野、例えば再生可能エネルギーとか医療産業などを打ち出した方が伝わるのではないかという気がする。他の自治体の総合戦略を見ても今回の案と同じような目標が並んでいるが、郡山市ならではの特徴的なものを出しても良いと思う。

人口減少抑制のために女性の働く場所の確保が必要という点。テレビでやっていたが女性の育児休暇は8割程度取得しているが男性は取得していないという話があったので、その辺りの話もどこかに入れておいていただければと思う。

内藤座長) 産学官金と盛んに言われているので、投資のまちという面でも期待している。丹野委員。

丹野委員) 一点目。産業の面から象徴的なものを挙げた方がいいという話があったが、具体的に伸ばしていく産業のイメージを明確に打ち出した方がよい。

二点目。全国どこの自治体でも女性の活躍支援ということに力を入れているが、郡山市としてどこの自治体もやっていないようなモデル的な事業をやってみてはどうか。例えばアンケートの中でも教育費の件が最大の問題として挙げられていたが、市独自の使いやすい奨学金の制度を作れば子どもがいる人も住むようになるのではないか。鹿児島に岩崎産業という地域の優良企業があるが、この会社は東京に岩崎学生寮という寮を作って地元の学生が低廉に入居できるようにしており、地元の学生にとっては励みになっている。子どもが少ない一番の原因はお金の問題だと思う。

内藤座長) では藤田さんをお願いします。

藤田委員) 郡山の強みについて考えてきた。私が考える郡山の強みは「総合力」だと思う。まちづくりの話になると「他にはない」「特色ある」といったことを考えてきたが、郡山については100m走では勝てないが十種競技なら全国屈指だと思った。個別のものについてPRしていくよりも、郡山の総合力は全てにおいて高いというアピールの仕方もあるのではないかと思った。政策目標の1～6についても、見せ方を変えるだけ、例えば六角形にして中心に「総合力」と入れて、

すべての面において優れているのが郡山市の強みだ、ということアピールしたらどうか。例えば、都市的な生活の面では東京には勝てないが自然は東京よりは恵まれている。自然しかなければ自然しかPRできないし、都市しかなければ都市の魅力をアピールするしかないが、郡山は全てがバランスよく揃っているという見せ方もありかと思った。

基本目標の中でも全てが繋がっているという見せ方があってもいい。私は農家なので「農業の担い手育成と成長産業化」とあるが、郡山市は30万都市なので市内での消費でも十分やっていける強みや企業と連携した展開もできる強みもある。内容はこれでいいと思うが、書き方や相互の関係の見せ方の問題。単品を並べるよりも繋がりをセットにして見せた方が特徴が出せるのではないかと思う。

内藤座長) 面白い視点だと思う。それぞれ一番はないがなんでもあって総合力ではトップというアピールができれば。次は本部委員。

本部委員) 個人的な話だが丹野委員から紹介して頂いた岩崎産業に勤めていたことがある。確かにそういう考え方もあると思った。私からは市の方々に斬新な地方創生の取り組みをしている自治体の視察を提案したい。確かに郡山市には何でもあるが、それだけではぼやけてしまう。個人的な意見としては人に例えると「何でもできる人」というのは「特徴のない人」になってしまう。

例えば富山市では「まちなか居住推進事業」という事業の中で市民がまちなかに住宅を取得した場合や事業者が高齢者向け優良賃貸住宅を建設した場合に50万円を上限に補助を行っている。また高齢者が市内中心部の公共交通を使う場合、運賃を安くしてまちに出る高齢者が増えることによって健康増進につながった。

また、例えば鯖江市は眼鏡の街として有名だが、最近行政データのオープン化によりデータのまちに生まれ変わって産業振興につなげようとしている。そういった先進事例を踏まえて、まちづくりに取り組むことも考えられる。今回の資料の「基本目標」は「基本理想」にしか聞こえない。このような目標は日本中のどこの自治体でも掲げているもの。理想は理想としてあるのはよいが斬新な取り組みがあってもよいと思う。

内藤座長) 同感できる場所も多々ありますので、よく検討しましょう。続いて吉田委員の方から。

吉田委員) 労働組合の代表として出席しています。基本目標についてはこれができれば理想と思った。身近な職場の若者を見ていると、結婚したくないという意見も結構多い。アンケートでも出ていたように結婚しても生活できないのではないかという不安があるのだと思う。面倒臭い、一人の方が気楽という考えの若者もいる。30万人という数字には特別根拠があるわけではないという話があったが、

政府が言っている1億人維持もそうだと思う。その前に、結婚してどう働いていくかという部分をもっと分かりやすく出した方がいいのではないかなと思う。基本目標は理想像としてこうあるべきと思うが、実際働いていく中で例えば家庭を持った男性がどう働くべきか、女性がどう働くべきかという現代の社会、今の世代に合った理想像を分かりやすく提示した方が人口の維持に繋がるのではないかなと思う。

内藤座長) 商工会議所でも婚活パーティーをやっているが、何のためにやっているのかというと「そういうことをやることは恥ずかしいことではない」ということを定着させようとしてやっている。子どもを産むことへの抵抗感をなくす必要はあるかもしれない。

最後に私からもコメントをすると、私には娘が二人いて三人目の孫が一ヶ月前に生まれて、来週あたりもう一人生まれる予定。一人の娘は東京にいるが、女房が三ヶ月東京に行きっきりで面倒を見たとし、今度は郡山に三ヶ月拘束される。三人目の子を育てるとするのは大変だということを実感している。女房もまだ60前で体力があるからできるが、5年後にやれと言われてたらやれないと話しているので、結婚の時期が遅くなるということは祖父母世代にも無理が出てくる。他人事ではないと思っている。

郡山は総合力のまちだという話があったが、何か特徴を出すのであれば出すべきだとは思う。ただそれが出しにくいまちであるということだと思う。

郡山市の出生率をあげても市外に移動してしまうのであれば人口は増えない可能性がある。出生率は暮らしやすいまちとしての指標であるが、人口が28万人になってしまいそうなまちを30万人にしていくための成長戦略が必要となっていて、かつてチャイルドファーストという政策が言われ、品川市長も「子本主義」ということを言っているので子どもから考える政策があるべきで、女性が働きやすいまちを目指すのであればレディファーストのまちである必要がある。今の日本社会は高齢者が暮らしやすい政策になっている。高齢者はスキー場で割引もあるし、JRも高齢者は安い切符が買える。そうではなく、子育て世帯にお金が回る、県も考えているようだが福島県に住めば奨学金の上乗せがあるというような斬新な政策が必要だとは思う。富山市はよく視察の対象になっているし、鯖江市はビッグデータを活用したICTのまちとして郡山市の方向性に合致する部分もある。基本目標を具体的な施策につなげていくためにはビジョン、イメージ、あるべき姿を提示する必要がある、どこかの自治体でもありそうなものは避けたいと思う。これから具体性のある肉付けをしていただければと思う。

最後に、これまで出たテーマについて議論したいと思うが、やはり郡山は何のまちというのは言えないのか。総合力は高いと思うがイメージがボケてしまうというのもその通りなので。

藤田委員) 総合力が高いということを根拠や将来のポテンシャルを各分野で示していく。例えば産業の分野では産総研などの基盤を生かして研究都市としての可能性もあるということを示すことによって他にはないものがあるから総合力が高いということを示せばよい。凄く先進的なことをやっていると示せばよいが現実には難しいので可能性の部分で示していければと思う。三人の子を育てている立場からすると何か尖ったことがあるのが子どもを育てやすいまちかというところではない。住みやすいまちと人が集まるまちは相矛盾しているところもあるのでそこをどう整合させるかが課題。

丹野委員) 基本目標1～6はこれで良いが、それぞれの基本目標の中で何か一つ特徴的な政策を考えていくというだけでもだいぶメリハリがついてくる。あれもこれもというのは難しいので何か一つ注目されるような取り組みをすればいい。

内藤座長) 上田委員が言ったように政策パッケージにはストーリーが描かれているのが理想。

最近PTAでは福島県は教育のレベルが低いのではないかということが問題になっている。秋田は高くて福島は低いのは何故なのか。どうすれば教育レベルを上げることができるのか。

上田職務代理者) 自分は富山出身なので富山の話になるが、富山県は人づくりを重視するので県別の順位をいつも気にしていて、義務教育の厳しさはすごいものがあった。東京も福島も甘いと感じる。教育というのは五カ年計画で達成できるようなものではなく、厳しくやることによって人柄の良さなどの点数に現れない良さが失われるということにもなりかねない。教育のレベルを売りにするのは違うかなと思う。住みやすさや子育てのしやすさという面で基本目標の6に挙げている教育環境、特に義務教育の整備というのは郡山市の弱い部分であると感じる。

内藤座長) あさかの学園大学(郡山市の高齢者大学)の副学長をしているが、高齢者の方の元気さと活気に圧倒される。まだエネルギーのある高齢者の方に子育て支援にご助力いただけるとよいと思う。少子化によって子ども会が成立しない地域も出ている。高齢者と子どもが触れ合う機会が少なくなっているがそういう機会があると高齢者も喜ぶのでそういう機会が増やせればと思う。

藤田委員) 先日サツマイモ掘りをやったが、知人だけを呼んだが子どもが19人も集まった。親も含めて30人以上が集まった。都会だったら遠出をしないとできないし、少人数じゃないとできないようなことが郡山だったら市内で農家の指導も受けながらできる。教育は教育現場だけでやるものではなく地域全体でやるものだと思う。様々な産業が揃っていることによって、教育にそのリソースを生かすことができるというのが郡山のよさだと思う。産業なら産業の分野だけで完結するのではなく、産業が活性化していれば教育にもいい影響を与えることが

できるし、逆も然りだと思う。中心部で産業が繁栄していると同時に周辺では湖南や熱海、西田、中田などの農村地帯が残っているというのが郡山市のよさだということも教育にも活かしていければ良いと思う。

内藤座長) 藤田さんがいるから農業関係者が集まって切磋琢磨して日本一の農業エリアになるというのも一つのあるべき姿なのかもしれない。産総研や日大工学部、福島大学の学生がまちに出て、地域の一般市民と若い力が交流するということも今までは多くなかったのではないかという気がする。そのような交流の場があるということがコミュニティを大事にするということにつながるという気がする。出生率が高い地域を見ると沖縄県だったりする。地域みんなで子育てを手助けしてくれるような文化があるから安心して子どもを産みやすいのかと思う。出生率の事だけを言うつもりはないが、人口が減るということはまちの商店が減って食べる量も減っていき、食品加工業も衰退してエリアを移してしまう。家族的商売で成り立っていた地域が競争に巻き込まれていくということもあるのでできれば30万人は維持する必要があるということもある。そのためには子どもを産むだけでは無理で、交流人口を増やして人を吸引することも必要だし、東京圏に住んでいる人たちに移住してもらう住みやすいまちということも必要。子ども中心で考えたら必要な施策というものもあると思う。

小松委員) アンケートを見たら「子育てしやすい環境づくりのために参加したいこと」という設問で「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭り」が3割を超えて一番多かったことに驚いている。地域性を大事にして多様な世代が集まれるイベントを増やしていくことが地域の子育て支援にもつながる。市民目線で関心のあるものから組み立てていきたい。

内藤座長) 一つ感じるのは子どもを育てる費用というのは投資に近い性格があって、いざれ市の税収として帰ってくる。予算の枠がこれしかないという考え方ではなく、投資として考えたほうがよいのではないかと個人的には思っている。子ども中心で考えるということは地方創生の中心テーマではないかと感じている。どの産業でも労働者が足りないということで女性も高齢者も働くようにと国が言っているがなかなか簡単ではない。組合の視点から何かありますか。

吉田委員) どの企業でもそうだが労働者が定着しないという問題がある。この20年の間に忍耐力がある人が減ったということを感じる。

内藤座長) アンケート結果を見ると出産・育児に対する企業サイドの理解が足りないという意見があるが、何とかしなければならぬと思う。県では子育てしやすい企業の認定制度(注:福島県次世代育成支援企業認証制度)があるが、郡山市でも理想的な企業を認定する制度を設けることによって実例を挙げていくということはお金をかけずにできると思うので検討していただいたらいいのかもしれない。企業サイドにも「できるけどやっていないこと」というのはある。残業しな

いようにするにはそのような制度を作ればいいし、子育てで早退するのは困るというが必ずしもそれが全てではないと思う。そういう制度を設けることによって優秀な社員を雇えるのであれば企業は考えると思う。色々な意見が出てまとめるのは大変かもしれないが、他に何かありますか。

上田職務代理者) 総合戦略の期間が5年間であるということが前から気になっている。まち・ひと・しごとということであれば5年では始めることしかできない。人口ビジョンが2040年目標であるのだから、その間は継続すべきかと思う。

内藤座長) 個別の各分野の計画は別途あって、この総合戦略に則った形で各計画に展開していくということだと思うが。

上田職務代理者) 文章にそのように付け加えておいてほしい。

内藤座長) 例えばしごとみがきについて言えば産業長期計画のようなものがある。そちらの計画が総合戦略に則ったものであるようにしてほしいということですね。

上田職務代理者) はい。

丹野委員) 人口ビジョンということになると定住人口がベースになるが、定住人口を増やすよりも交流人口を増やすというのは前から言われてきた話なので、統計は取りにくいだろうが交流人口についてはどこかに記述してほしい。外国人観光客が来れば膨大な買い物をしていくし、外から人が来れば必ず消費をしていく。教育をしても郡山の外に行ってしまうこともありうる。郡山市が30万人を達成しても周りの自治体がやっていけなくなるということもありうるので、交流を活性化させることは必要。私に関わっている自治体は人口が2千人だが交流人口を増やすことによってしか生き残れないということをやっている。30万人にこだわっても仕方がないのかなと思う。経済の活性化のためには交流人口を増やすことのほうが重要だと思う。

内藤座長) 郡山市と仙台市の違いは工業出荷額ではなくて消費額だということ。交流人口が増えると市内の消費が増えて税収も増えるといった指標を持って交流人口を増やしていけば良い。

丹野委員) 消費税はいずれ地域に還元していく流れになるので、地域の消費は経済活性化や税収に効いてくる。

内藤座長) 様々な意見をいただきました。まとめにくくなってきましたがいずれにせよ後1・2回で集約ということですので、事務局には意見の反映をお願いしつつ、郡山市の長期の総合戦略のベースにこの骨子案がなるというのが理想ですので、事務局にも委員の皆さんにもご協力いただいているものになりたいと思います。本日はありがとうございました。

司 会) ありがとうございました。最後にその他ということですが、何かありますか。なければ事務局から次回のスケジュールについて説明があります。

事務局) もう少し早くご案内すべきだったのですが、本日欠席の松原委員からご意見を

いただいております。1点目は人口30万人と出生率1.8の関係について疑問が残るが、方針そのものに異論はなし。2点目は基本目標と政策パッケージについては「郡山市なら働くことができ子どもが養えるという環境が重要だがそのための方向性が見える政策パッケージになっている」ということでご理解と評価をいただいた。

次回のスケジュールですが、本日のご意見を反映する時間をいただきたい。年内に素案を作成というスケジュールを予定していたが12月末から来年にかけてパブリックコメントができればと考えている。当初有識者会議は5回を予定していたが、もう一回開催することもありうるということでご理解いただきたい。次回の有識者会議は11月27日（金）の開催を予定している。会場を調整した結果、午前午後を決めて早めに連絡させていただく。その際には人口ビジョンは最終案、総合戦略に関しては具体的な事業を挙げたものを示したい。

○閉会

司 会) 以上をもちまして第4回郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議を閉会とさせていただきます。

以上